

駒場 1998

東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部



KOMABA 1998 SUPPLEMENT
GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場] 1998
SUPPLEMENT

表紙について

赤絵式ヒュドリア

高さ：21cm 胴部径：8.3cm
紀元前350年頃

この赤絵式ヒュドリアは、南イタリア、カンパニア地方にあったギリシアの植民都市で製造された陶器である。紀元前5世紀前半ではアテナイを中心に作られたアッティカ陶器がさかんに製造され、地中海沿岸の各植民都市に輸出されていたが、紀元前5世紀末になるとこれらの都市の繁栄にともない陶器の製造も開始された。南イタリアのこれらの都市における陶器ははじめアテナイの陶工たちが指導したため、アテナイ風の陶器が作られたが、しだいに南イタリアの作風ができあがっていった。南イタリアのギリシア陶器の研究者であるオーストラリアのA.D.トレンダール氏の研究によれば、ルカニア、アブリア、カンパニア、パエストゥム、シチリアの五つの流派に分類されている。(A.D.Trendall, *The Red-Figured Vases of Lukania Campania and Sicily I, II*, Oxford Monographs on Clasical Archaeology, 1967, Oxford)

このヒュドリアはトレンダール氏の分類に従えば、カンパニア派に属する“パーリッシュの画家”によって制作された陶器である。赤絵式という呼び方は赤像式ともいい、陶器の赤い地肌を像として残し、その他の部分を黒く塗ってしまう絵付けの方法で、南イタリアで作られた陶器の多くがこの方法で作られている。ヒュドリアは水瓶のことである。この写真には左右に二つの把手が見えるが、実は正面の向こう側にもう一つの把手が縦についていてその把手をもって水を別の瓶にあけたりできるようになっている。また、その把手は紐をかけたり、頭の上に載せたときのバランスを崩さないように押さえたり、水を安全に運べるような機能としても使用されていた。絵の主題については「アガメネンノンの墓におけるエレクトラとオレステス」を表したものと解釈することもできるようであるが、明らかではない。

美術博物館の所蔵品の中には、この他にギリシアやキプロスの陶器が数点ある。美術博物館の発足した昭和20年代には、東洋考古学の三上次男教授や西洋古典学の呉茂一教授が委員をされていたこともあって、このような資料が蒐集されたものであろう。

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場] 1998
SUPPLEMENT



東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部

[駒場] 1998 SUPPLEMENT

東京大学大学院 総合文化研究科 東京大学教養学部

●目次

まえがき	7
I 1998年における総合文化研究科・教養学部	
1 前期課程教育外部評価について	10
2 キャンパス・プラザの竣工と利用開始	17
3 駒場キャンパスマスタープラン「駒場地区駒場Ⅰキャンパス整備計画概要」策定について	21
4 環境の整備	26
5 「教養学部報」のインターネット化について	30

付属資料1

シンポジウム	34	講演会	35	招聘講演	37	公演・演奏会	38
招聘教授・交換教授	39	学外からの評価	40				
平成10年度科学研究費補助金一覧	41						
平成10年度奨学寄付金一覧	52						
平成10年受託研究	54						

II 総合文化研究科・教養学部では、誰がどのように研究教育を行っているのか

凡例	56
教官の経歴と業績	
専任教官	58
客員教官	72
外国人教師	76

付属資料2

平成10年度志願、合格、入学状況	80
平成11年度進学内定者数	81
定員の推移	82
平成10年度クラス編成表(1年/2年)	83
研究生	85
平成10年度の役職者	86
キャンパス配置図	88